

予備試験合格パック - ガイダンス p a r t 2

加藤ゼミナール代表 弁護士・加藤 喬

(目次)

第1. 予備試験合格パックとは	p 2
第2. 司法試験・予備試験で大事なこと	p 3
第3. 予備試験1年合格を目指すべきか	p 4
第4. 加藤ゼミナールの予備試験合格パックのこだわり	p 5
第5. 司法試験・予備試験対策として予備校を利用する必要性	p 8
第6. 講義の聴き方、教材の使い方	p 9
第7. 予備試験合格パックについてよく頂くご質問	p 1 1
第8. カリキュラムを構成する講義ごとの説明	p 1 3

第1. 予備試験合格パックとは

加藤ゼミナールの予備試験合格パックでは、私が作成した基礎・応用完成テキストをメイン教材として、入門段階を高野泰衡講師が、試験対策の段階を私がそれぞれ分担することにより、基礎固めから試験対策レベルの勉強まで一気通貫したカリキュラムになっております。

入門段階を担当する高野講師は、30年近くにわたって司法試験の入門講座を中心とする指導経験を有する入門のプロであり、純粋初学者の方に対して、法律学について入り口のところから分かりやすく丁寧に説明することを得意とします。

私は、徹底した過去問分析に基づく試験対策レベルの講義を得意としているとともに、様々な文献を参照した上で試験対策の観点からまとめられたテキストを作成することを得意としております。これまでに数十冊にわたる予備校テキストを作成して参りました。

今回の予備試験合格パックで使用する教材の大部分は、私が作成いたします。

予備試験合格パックでは、当該科目で司法試験1位を獲得した私（労働法1位・総合39位）と加藤駿征弁護士（経済法1位・総合5位）が担当する選択科目対策講座が含まれるとともに、予備試験合格後の学習支援として最新版の司法試験過去問講座全年度分の無料付与もごぞいます。

このように、加藤ゼミナールの予備試験合格パックだけで、純粋初学者の方でも、予備試験合格から司法試験合格、さらには超上位合格まで目指すことができます。

従いまして、加藤ゼミナールの予備試験合格パックを受講して予備試験・司法試験合格を目指す上で、法学部であるか否か、法律学習の経験の有無は問いません。

誰しものが、加藤ゼミナールの予備試験合格パックを受講して合格を掴み取るチャンスを持っております。

第2. 司法試験・予備試験で大事なこと

1. 論文試験で大事なこと

司法試験でも予備試験でも、最も競争が激しいのが論文試験です。

よく、司法試験・予備試験では「論理的思考力」が大事であることを言われることがありますが、実際のところ、論理的思考力といった高い次元のところでは合否が決まることは殆どありません(勿論、1～2桁台の上位合格を目指す上では、論理的思考力もそれなりに重要になってきます)。

論文試験においては、論理的思考力よりも、次の4つのことが大事です。

- ①大量の情報を記憶する記憶力
- ②問題文から出題者のニーズを読み取る読解力
- ③記憶したこと・その場で考えたことを分かりやすく簡潔に表現する文章力
- ④試験対策として割り切り学問的正確性や論理の繋がりを過度に追求しない素直さ・器用さ

2. 言語化の前にイメージを先行させる

法律学習の対象は、抽象的な概念、条文といったものであるため、これらがだいたいどういったものなのか(条文なら、だいたいどういった場面で、何のために適用されるのか)といったことについて脳内でイメージできるようになることが大事です。

だいたいのことをイメージできていないのにいきなり言語化して理解・記憶しようとしても、理解が伴わない表面的な単なる文字としての知識が身につくだけです。

したがって、まずは全体を俯瞰することを優先し、その際、分野、重要な条文・手続・論点について脳内でイメージできるようになれば足りますし、そのイメージは曖昧・不正確なものでも構いません。

その後で、徐々に、脳内でイメージできることを言語化して理解・記憶していきます。

3. 法体系に結び付ける形で個々の知識を理解する

法律の勉強に限ったことではありませんが、個々の知識を体系(=全体像)に結び付けることが重要です。

まずは各法の体系(=全体像)を把握し、その上で個々の条文・判例学説といった知識を法体系に結び付けて理解するように努めます。

体系に結び付けられていないぶつ切りの断片的な知識を増やしても、問題は解けません。個々の知識をどの場面でどう使うのかが分からないからです。

勿論、個々の知識について勉強する過程が各法の体系の習得を促進することにも繋がるので、体系の把握と個々の知識の習得を完全に分離することはできないのですが、まずは全体像をざっと把握するために軽く1周し、細かいこと・深いことは2周目以降に回すべきです。

第3. 予備試験1年合格を目指すべきか

予備試験1年合格を目指して学習効果が最大化する人もいれば、土台となる1周目が雑になりすぎて2周目以降で徐々に積み上げる勉強ができなくなり却って遠回りすることになる方もいます。

短期合格における期間の長短は人ごとに異なります。

他人と比較しすぎず、ご自身の可処分時間、勉強での成功体験の有無、勉強の得意不得意といった事情を踏まえて、自分に合った短期合格のプランを立てることが大切です。

詳細につきましては、私と高野講師との対談動画及び対談記事をご覧くださいと思います。

<https://kato-seminar.jp/yobisiken-goukaku-pack/>

第4. 加藤ゼミナールの予備試験合格パックのこだわり

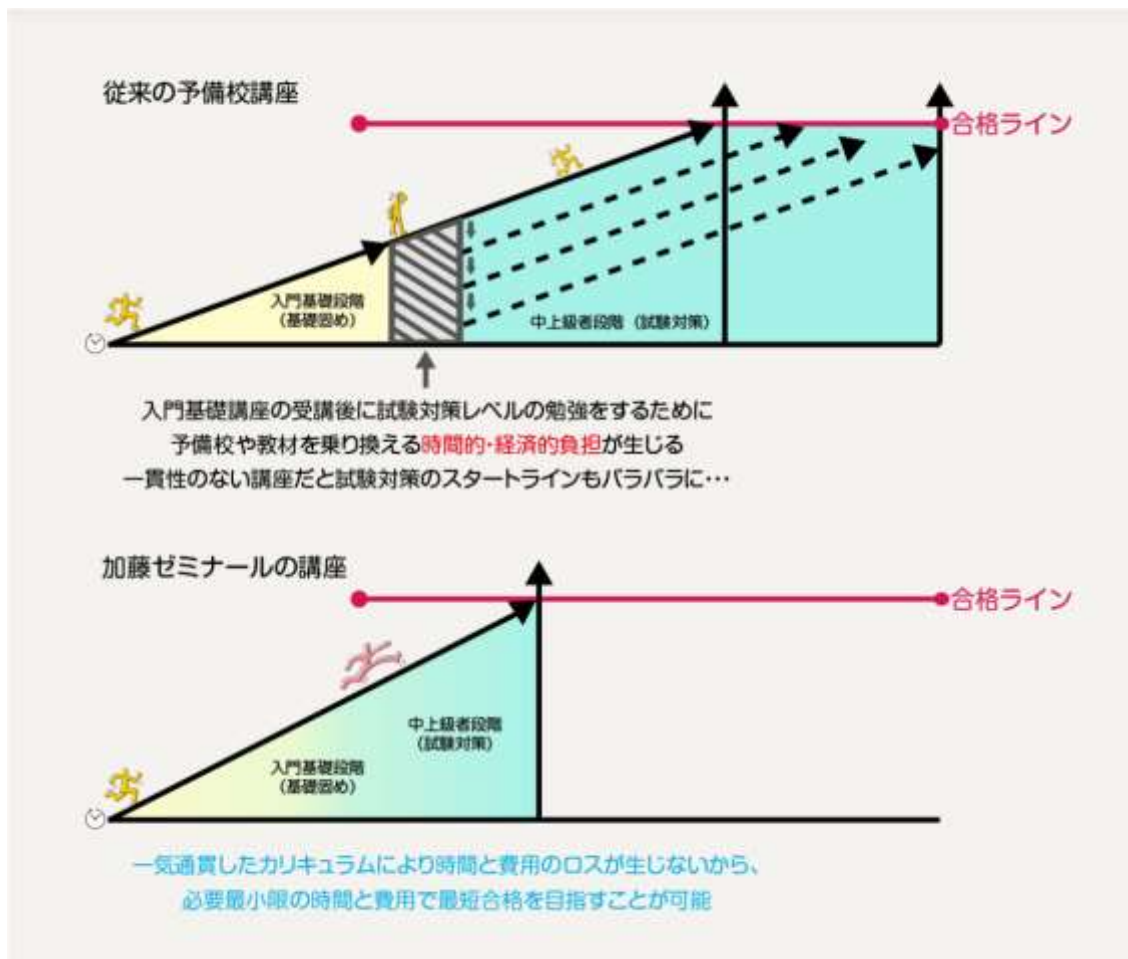
1. 1つの予備校と教材で基礎固めから試験対策レベルの勉強までが完成

従来の予備校では、基礎固めをするための入門基礎講座しかなくて、入門基礎講座を受講した後に、試験対策レベルの勉強をするために新しい予備校や教材を乗り換えることによる時間的・経済的負担が生じがちでした。

加藤ゼミナールでは、こうした時間とお金の無駄を省くために、予備試験合格パックだけで、基礎固めから試験対策レベルの勉強まで一気通貫して完成させます。

具体的には、インプット講座を「導入インプット講義」、「基礎インプット講義」、「中上級者向けの総まとめ講義」及び「短答インプット講義」の4段階に分けた上で、私が作成した基礎・応用完成テキストを使って、各講義を入門のプロである高野先生と試験対策のプロである私とで適切に分担します。

したがって、加藤ゼミナールの予備試験合格パックでは、試験対策レベルの勉強をするために予備校や教材を乗り換えることによる時間的・経済的負担が生じることはありません。



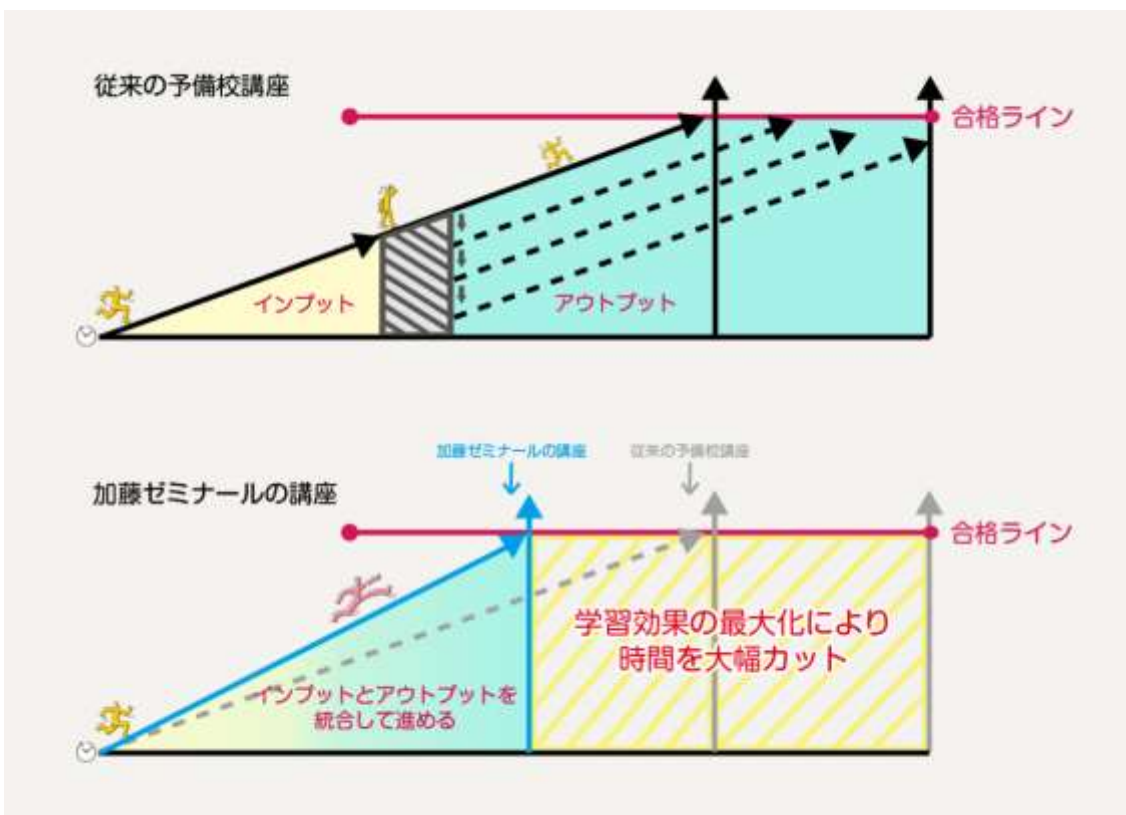
2. インプットとアウトプットを統合した新スタイルの講義

従来の予備校講座では、「今回は、この分野について、何条から何条まで勉強します。…この条文にはこういった論点があり、判例や通説はこういった立場です。」という感じで、法律を法律から見たような、知識に偏った講義が主流です。

しかし、受験生の皆様が論文試験本番でやることは、具体的事例を前提としたアウトプットであり、その最終目標としてのアウトプットをするための道具を身につけるためにやるのがインプットです。

加藤ゼミナールの入門インプット講義は、基礎問題演習講義の事例から入り、当該事例の参考答案も参照しながら、具体的事例を解決するための知識として条文や論点についての説明を進めるというように、アウトプットと統合した形で実施します。

これにより、インプット講義の段階で自然とアウトプットで使える法律知識と思考の枠組みを身につけることができます。



3. 教材の質の高さ

加藤ゼミナールでは、全ての講座の教材を、代表である私か当該講義の担当講師が作成いたします。

予備試験合格パックで使用する教材は、導入テキストと経済法テキストを除き、全て私が作成するものであり、これまで私が作成してきた教材と同様、徹底的な試験傾向の分析と文献による裏付けに基づいて作成いたします。勿論、テキスト右端に参考文献を該当する頁数とともに逐一表示することなどにより、著作権対応も徹底しております。

また、高野講師と加藤駿征講師が作成した教材についても、私が最終チェックをすることで、教材の品質管理を徹底いたします。

4. 短答試験対策までサポート

加藤ゼミナールの予備試験合格パックでは、短答対策を受講者様に丸投げすることなく、短答インプット講義と短答過去問講義により短答対策までサポートいたします。

基礎・応用完成テキストに論文知識だけでなく短答知識も反映した上で、インプット講義の一番最後に位置する短答インプット講義において、基礎・応用完成テキストのうち基礎講義と総まとめ講義では取えて説明しなかった短答試験固有の部分について、高野講師が分かりやすく丁寧に説明いたします。これにより、基礎固め→論文試験対策→短答試験対策という適切な段階を踏んでインプットの幅を広げていくことができるので、確実な知識を身につけることが可能となります。

また、短答過去問講義では、私が各科目10問前後で当該科目の「解法」と「勉強法」を習得する上で重要な問題を選別し、自ら作成したオリジナル解説テキストを使って、当該科目の「解答」とそれを踏まえた合理的な「勉強法」について説明いたします。

さらに、短答対策のサポートの一環として、年々短答過去問が蓄積されていることを踏まえ、私が、辰巳法律研究所様の短答パーフェクト搭載の過去問で反復すべき問題について、ピンポイントに指定することで全体の2分の1程度にまで絞り込みます。

加えて、予備試験合格パックの受講者様は、加藤ゼミナールにおいて、辰巳法律研究所様の最新版の短答パーフェクト（8冊セットに限る）を講座受講者価格（15%OFF）で購入して頂けます。

※加藤ゼミナールの予備試験合格パックの教材として短答過去問パーフェクトを提供・使用することにつきまして、辰巳法律研究所様の了承を得ております。

5. 当該科目1位の弁護士が担当する選択科目対策講義

加藤ゼミナールでは、対極的な科目特性を有する労働法と経済法について、選択科目対策講座を用意しております。

いずれの講座も、司法試験で当該科目1位を獲得した私と加藤駿征弁護士とで担当いたします。

私は、平成26年司法試験に労働法1位（受験者2466人）・総合39位（受験者8015人）で合格し、労働法対策講座を担当いたします。

加藤駿征弁護士は、平成28年司法試験に経済法1位（受験者865人）・総合5位（受験者6889人）で合格し、経済法対策講座を担当いたします。

私と加藤駿征弁護士との対談動画及び対談記事は[こちらから](#)ご覧いただけます。

第5. 司法試験・予備試験対策として予備校を利用する必要性

まず、司法試験・予備試験に限らず、国家試験対策にはなるべく予備校を利用したほうが良いです。試験にはそれぞれ、当該試験特有の出題の範囲、深さ、特徴といったものがあります。市販の基本書の大部分は、学問的観点又は実務的観点を中心として法律を説明しているのであり、特定の法律試験の対策という観点に絞って法律を説明しているわけではありません。したがって、基本書を使って独学で勉強をする場合、当該試験特有の出題の範囲、深さ、特徴といったものを把握することが困難ですし、仮に把握することができたとしても時間がかかります。

次に、特に司法試験・予備試験対策では、予備校を利用する必要性が高いといえます。その理由は、主として4つです。

- ・司法試験・予備試験では、アウトプットで使う公式(=条文、判例、学説、処理手順等)の量が膨大であるため、試験対策という観点からこれらの情報が漏れなく・無駄なく反映されている予備校テキストを使うべきである
- ・試験対策として必要な公式(特に、解釈レベルのこと、処理手順的なこと)の範囲が不明確であるため、試験対策という観点からこれらの情報が漏れなく・無駄なく反映されている予備校テキストを使うべきである
- ・問題1つあたりの公式が複数かつ不定形(学説選択、判例理解、論証・手順の正確性)であるため、これらが試験対策という観点からベストなものとして反映されている予備校テキストを使うべきである
- ・基本書を使った独学では試験で評価される答案の書き方を学ぶことができないから、試験で評価される書き方を熟知している試験対策のプロの説明を聞く必要がある

なお、私は、基本書の有用性を否定するつもりはありません。試験対策という観点から見た場合であっても、基本書には基本書の良さがあります。極端な予備校テキスト批判、基本書批判に惑わされ、予備校テキストと基本書の関係について二項対立的に捉えすぎないようにしましょう。

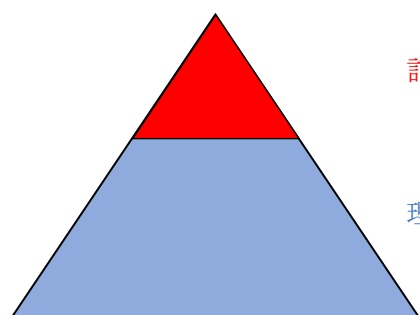
第6. 講義の聴き方、教材の使い方

1. 教材に対するマーク指示

基礎・応用完成テキストには、「記憶する記述」と「記憶する記述を理解するために読む記述」（以下「理解のために読む記述」といいます）とがあります。

最終的には、「記憶する記述」だけを何度も読み込むことによりインプットをすることになりますから、記憶の範囲とその優先度を明確にするために、「記憶する記述」にマーカーを引くべきです。

もっとも、「記憶する記述」に関する知識は、その何倍もある「理解のために読む記述」に関する理解によって支えられています。そのため、「理解のために読む記述」に関する理解が疎かであると、「記憶する記述」について、理解を伴わない使えない表面的な知識が身につくにとどまる上、記憶も定着し難いです。



記憶する範囲

理解のために読む範囲

初めは「記憶する範囲」だけでなく「理解のために読む範囲」も読みます。読み返す回数が増えるにつれて、徐々に「記憶する範囲」を理解するために読むべき「理解のために読む範囲」が狭まっていき、試験1～2か月前には「記憶する範囲」を読むだけで理解の伴った記憶を完成させられる状態になっているのが理想的です。

インプットは、基本的には、「理解」→「記憶」という流れで進めるものであり、基礎講義は理解重視の学習段階に属するものです。

理解重視の学習段階で、いきなりテキストにマーカーを引くと、どうしても視野狭窄になり、マーク箇所だけを読み、その周辺にある「理解のために読む記述」を読まなくなってしまう。

そこで、基礎講義の段階では、敢えて、テキストに対するマーク指示を行いません。基礎講義を担当する高野講師が授業中に受講画面左に表示されているテキストに線やマーカーを引くこともありますが、これは記憶対象を絞り込む趣旨でもものではありません。

試験対策レベルの勉強をする段階に属する総まくり講義では、私が、基礎・応用完成テキストと総まくり論証集の双方を参照しながら授業を進める過程で、主として、論文一元化教材である総まくり論証集を対象として、マーク指示をいたします。

2. 基礎講義の聴き方（基礎・完成応用テキストの位置づけ）

後記4にもある通り、基礎・応用完成テキストは、予備試験合格パックの一番のメイン教材ですから、基礎講義で学んだことは基礎・応用完成テキストに反映していくことになります。

基礎講義を担当する高野講師が受講画面左にレジюмеを表示することもあります、そのレジюмеは、基礎・応用完成テキストを使った説明を補うための板書的なものとして表示されているものです。

したがって、受講者の皆様には、机上に基礎・応用完成テキストを置いた上で、受講画面に表示される板書に相当するレジュメも参照しながら授業を聴くことで、基礎・応用完成テキストを対象としてインプットをして頂くことになります。

その際、高野講師の口頭での説明、レジュメ中の図（高野講師がその場で書いた図も含む）のうち、必要と考えるものを基礎・応用完成テキストに書き込んで頂きます。

3. 自分でまとめノートを作るべきか

論文一元化教材として総まくり論証集があるので、「一元化教材が欲しい」という目的のために自分でまとめノートを作成することはお薦めできません。基礎問題演習テキストや予備試験過去問テキストの答案を参照しながら、総まくり論証集の論証を自分に合った水準・短さ・表現に修正したり、必要と考える情報を総まくり論証に加筆することで、総まくり論証集を自分にとって一番使いやすい一元化教材にカスタマイズするという勉強法がベストです。

もっとも、中には、テキストを読んでいるだけでは、どうしてもテキストを見ているだけになってしまい、そのとき限りの浅い理解・記憶で終わってしまうという方もいます。こうしたタイプの方には、自分でまとめる過程で理解・記憶が深まるという意味で、「まとめノートを作成する過程」に大きな意味があります。とはいえ、この場合であっても、まとめノートを作成する際に参照する教材・文献の範囲や、1科目あたりのまとめのノートの分量又はまとめノートの作成に使う時間を適切に限定する必要があります。

4. 基礎・応用完成テキストと総まくり論証集の関係

基礎・応用完成テキストは、基本7科目の基礎講義、基本7科目の総まくり講義、基本7科目の短答インプット講義で使用する、予備試験合格パックの一番のメイン教材であり、ここには、短答試験レベルの細かい知識、理解のために読む記述も反映されています。司法試験・予備試験に必要とされる全情報が反映されているテキストです。

一方で、総まくり論証集は、基礎・応用完成テキストのうち、「論文試験のために記憶する記述」に絞って反映した論文対策用の一元化教材です。

基本7科目の論文対策のための一元化教材としては、総まくり論証集を使って頂くこととなりますから、最終的には、論文対策用の教材を基礎・応用完成テキストから総まくり論証集に切り替えることとなります。

そのタイミングが、論文本試験レベルの勉強をする基本7科目の総まくり講義を受講する段階です。

総まくり講義では、基礎・応用完成テキストと総まくり論証集の双方を参照しながら、総まくり論証集に情報を集約させる形で授業を進めます（前記第6・1の通り、マーク指示も総まくり論証集を対象として行います）から、総まくり講義を受講しながら、さらにはその後に予備試験過去問講義を受講する過程で、総まくり論証集に必要な加筆・修正等を加えることで、徐々に総まくり論証集を自分にとっての最高の一元化教材に近づけていって頂きたいと思います。

第7. 予備試験合格パックについてよく頂くご質問

1. 答案添削の有無

予備試験合格パックのカリキュラムには、基礎問題演習テキストの問題を対象とした答案添削、答案添削付きの論文答練・模試は含まれておりません。

講師・合格者をはじめとする他者から答案添削を受ける目的は、自分にとっての課題を把握することを通じて自分で答案添削ができるようになるための視点を身につけることにあります。つまり、他者による答案添削は手段であって、目的ではありません。

予備試験合格パックでは、基礎問題演習テキストの問題のうち各科目数問、参考答案のほか批判的検討の対象となる疑似モニター答案を用意し、基礎講義の過程で、当該問題について参考答案と疑似モニター答案を比較しながら、初学段階の方々の多くに共通するであろう課題について、説明いたします。

受講者の皆様には、私が上記解説を担当する問題について事前に答案を作成した上で私の説明動画を視聴して頂き、私の説明とご自身の答案とを比較してご自身にとっての論文の課題を把握して頂きたいと思っております。

その上で、その課題を克服するためにどういった勉強をするべきかを考えて頂きたいと思っております。

このように、答案添削自体に意味があるわけではありませぬし、答案添削の回数が多ければ多いほどいいというわけでもありません。

大事なことは、自分にとっての論文の課題を把握し、その課題と真剣に向き合い、課題を克服するための勉強を実行するということです。

2. 質問制度

加藤ゼミナールでは、質問制度を設けておりません。

現実的な問題として、受講者様からのご質問に対して担当講師自ら全て対応することは不可能に近いですし、担当講師ではない第三者に回答を担当させることも適切ではありません。

また、質問制度を設けると、どうしても、質問をすること自体が目的化してしまう、およそ試験には出題されない空想上の発展事例を想定して考える悪癖がついてしまう、自分で調べたり考えてそれなりに筋の通った説明を導き出す姿勢と能力が培われぬ、複数の解釈や解答筋があり得る法律学・法律実務の世界で唯一の正解なるものがあると錯覚して悪い意味での正解思考に陥ってしまうといった弊害も想定されます。

こうした事情から、加藤ゼミナールでは、質問制度を設けてはおりません。

勿論、テキストや口頭での説明内容について誤りがある（法改正に対応していないことを含む）など、担当講師や予備校の責任として回答すべきご質問等については、加藤ゼミナールのお問い合わせを通じてご質問頂ければ、代表である私又は担当講師が責任もって対応させていただきます。

3. 基本書・判例集の要否

予備試験合格パックの教材には、司法試験・予備試験にトップクラスの成績で合格する

ために必要なことまで反映されていますから、基本書・判例集を要することなく、予備試験合格パックの講義と教材だけで司法試験・予備試験に上位合格することが可能です。

もともと、受講者の皆様が辞書的に基本書を参照することまでは否定しませんし、合格後も見据えるのであれば、自力で基本書・判例集を読むコツと能力を身につけておくことは重要です。

とはいえ、受講者の皆様が試験範囲を超えて無駄に法律学の世界に深入りしてしまうリスクを踏まえると、仮に基本書を用いるとしても、原則として各科目1冊に限定するとともに、講義を聴いてもテキストの記述を理解できない場合に辞書として参照するにとどまるという限定をするべきです。

基礎・応用完成テキストとの相性も踏まえると、辞書として参照する基本書として奨励するものは以下の9冊です。

- ・「憲法Ⅰ 基本権」初版（渡辺康行・宍戸常寿ほか - 有斐閣）
- ・「憲法Ⅱ 総論・統治」初版（渡辺康行・宍戸常寿ほか - 有斐閣）
- ・「基本行政法」第3版（中原茂樹 - 日本評論社）
- ・「民法（全）」第3版（潮見佳男 - 有斐閣）
- ・「会社法」第3版（田中亘 - 東京大学出版会）
- ・「リーガルクエスト民事訴訟法」第3版（三木浩一・笠井正俊ほか - 有斐閣）
- ・「基本刑法Ⅰ 総論」第3版（大塚裕史・十河太朗ほか - 日本評論社）
- ・「基本刑法Ⅰ 各論」第2版（大塚裕史・十河太朗ほか - 日本評論社）
- ・「リーガルクエスト刑事訴訟法」第2版（宇藤崇・松田岳士・堀江慎司 - 有斐閣）

なお、予備校テキストには、試験対策のために法律を勉強するという目的を踏まえ、敢えて学問的正確さよりも正確性を下げた記述をしている箇所があります。これは、受験生の皆様が身につけるべきは試験的に許容される正確さの知識であって、その水準は学問的正確さよりも（かなり）低いことに配慮したことによるものです。基本書を読むと、基本書の記述と予備校テキストの記述とのずれが気になってしまい、メイン教材を使い慣れた予備校テキストから基本書に切り替えてしまうということになりがちですから、こうしたある種の誘惑に打ち勝つ自信のない方は、基本書には手を出さない方が良いでしょう。

判例集については、判例百選（有斐閣）であれば、論点と典型事例の対応関係などをざっと確認するために軽く参照する程度であれば、使っても問題ありません。ただし、通読までは不要です。

第8. カリキュラムを構成する講義ごとの説明

(全体像)



1. 導入講義・・・・約20時間

講師	高野 泰衡、加藤 喬（「講義の聴き方」の後半のみ）
講義	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の聴き方・・・・約1時間 ・法律学の基礎・・・・約1時間 ・基本7科目の導入インプット・・・・各科目2～3時間
教材	・導入講義テキスト1冊（作成：高野泰衡）
説明	・「講義の聴き方」では、予備試験合格パックの学習効果を最大化するために、予備試験合格パックメイン講師である高野講師と私が主に自分が担当する

	<p>講義を対象として講義の聴き方（予復習の仕方を含む）について説明いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「法律学の基礎」では、基礎講義に先立ち、司法試験・予備試験対策としての法律学の学習をする上で基本的なこと・重要なことについて、高野講師が分かりやすく丁寧に説明いたします。 ・「導入インプット講義」では、基礎講義に先立ち、各科目の全体像を把握して頂きます。これにより、基礎講義を使った学習をスムーズに進めることができます。その科目特有の思考の枠組み（考え方）、法体系、重要な分野・条文・手続・論点について、言語化まではできないが脳内でだいたいのイメージができるという状態を目指します。導入インプット講義は基礎講義の下準備をするためのものですから、この段階では理解・記憶が曖昧・不正確でも構いません。まずは脳内でだいたいのイメージができるようになることを目指し、それから徐々に、導入以降の講座を受講する過程で言語化して理解・記憶していきます。 ・導入講義全体で使用する導入テキストは、基礎・応用完成テキストをメイン教材とする基礎講義以降の講義の下準備のための導入講義で使用するものですから、最後まで使う教材ではありません。基礎講義の受講過程で、必要に応じて、導入テキストの記述を基礎・応用完成テキストに反映しておくことをお勧めいたします。
--	---

2. 基本7科目の基礎講義 …… 約300時間

講師	高野 泰衡
講義	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎インプット ・基礎問題演習
教材	・基礎・応用完成テキスト7冊（作成：加藤 喬）
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・入門基礎講座の経験が豊富な高野講師が、基礎・応用完成テキストのうち基本的なことについて分かりやすく丁寧に説明いたします。 ・基礎講義→総まくり講義→短答インプット講義というように、段階的にインプットの対象範囲を広げるとともに深いこと・難しいことも取り上げていくので、基本的に論文本試験レベルの難しいことは総まくり講義で、短答試験レベルの細かいことは短答インプット講義で取り上げます。基礎講義では、その後の講義についてこれだけの土台を作ることを目指します。 ・基礎インプットと基本問題演習は、両者の学習効果を最大化するために、前者に後者を組み込む形で同時並行的に実施いたします。 ・基礎問題演習には、全科目共通&科目特有の思考の枠組みと答案作成の作法を習得することに大きな意味があります。もっとも、ピンポイントに基礎問題演習と同種の問題が本試験で出題されることもあるから、事案と条文・論点の対応関係、答案全体の流れといった、解答筋レベルのこともおさえておきましょう。 ・基礎問題演習の問題については、全問題について答案を書く必要はなく、各

	科目10問前後でも構いません。勿論、全部書くことに越したことはありません。
--	---------------------------------------

3. 基本7科目の総まくり講義 . . . 約110時間

講師	加藤 喬
講義	憲法～刑事訴訟法（基本7科目）についての試験対策レベルのインプット
教材	・基礎・応用完成テキスト7冊（作成：加藤 喬） ・総まくり論証集7冊（作成：加藤 喬）
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・総まくり講義では、基礎講座で使用した基礎・応用完成テキストを使い、論文本試験レベルの深いこと・難しいことまで解説します。 ・基本7科目の論文対策のための一元化教材としては、総まくり論証集を使うことになるので、最終的には、論文対策用の教材を基礎・応用完成テキストから総まくり論証集に切り替えることになります。そのタイミングが、論文本試験レベルの勉強をする基本7科目の総まくり講義を受講する段階です。そこで、総まくり講義では、基礎・応用完成テキストと総まくり論証集の双方を参照しながら、総まくり論証集に情報を集約させる形で授業を進め、マーク指示も総まくり論証集を対象として行います。 ・総まくり講義を受講しながら、さらにはその後に予備試験過去問講義を受講する過程で、総まくり論証集に必要な加筆・修正等を加えることで、徐々に総まくり論証集を自分にとっての最高の一元化教材に近づけていって頂きたいと思います。 ・総まくり講義を受講を終えた後は、基礎・応用完成テキストは、択一用、辞書用といった位置づけになります。

4. 基本7科目の予備試験過去問講義 . . . 約50時間

講師	加藤 喬
講義	基本7科目の予備試験過去問（平成23年～令和4年）の解説
教材	予備試験過去問テキスト7冊（作成：加藤 喬）
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本試験レベルの知識・方法論に精通している私が、予備試験過去問の解説を通じて、全科目共通&科目特有の思考の枠組みと答案作成の作法に加えて、分野・論点単位での思考の枠組み・答案作成の作法、分からない問題・現場思考問題における対処法、問題文の読み方、現実的な合格ラインといった本試験レベルでの実践的なことについて分かりやすく丁寧に解説いたします。 ・予備試験過去問については、基礎講義と総まくり講義で学習したことを総動員するつもりで、全ての問題の答案を作成します。これは、基礎講義と総まくり講義で学習した知識・受験技術の本試験レベルの問題で使うことに慣れるために必要なことです。 ・最初から合格答案を書くことができる人はいないので、ここで大事なのは、これまで勉強したことを総動員して本試験レベルの問題に体当たりすることで、本試験の試験傾向と、自分と合格との距離を把握することにより、両

	<p>者間の距離を埋めるためにこれからどういった勉強をするべきか具体的に把握するという事です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予備試験過去問の演習・復習の段階では、1科目につき70分・22行4枚以内で問われていることを答案にまとめ切る事（＝試験本番における時間と紙面の限界）、自分がどこまで正確に深く記憶できるか（＝自分の記憶の限界）といったことを踏まえて、総まくり論証集の情報を記憶した上で試験本番で答案に書くことを明確に意識しながら、総まくり論証集の記述を自分に合った表現・長さ・水準に修正しておくことが望ましいです。
--	---

5. 選択科目対策講義 ・ ・ ・ 約30～40時間

(1) 労働法

講師	加藤 喬
講義	<ul style="list-style-type: none"> ・労働法速修テキスト講義 ・ ・ ・ 約20時間 ・労働法基礎問題演習講義 ・ ・ ・ 約20時間
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・労働法速修テキスト (作成：加藤 喬) ・労働法基礎問題演習テキスト (作成：加藤 喬)
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・入門講義である労働法速修テキスト講義→労働法基礎問題演習講義という流れで、労働法対策を完成させます。 ・予備試験合格パック専用の新労働法対策講座の詳細はこちらをクリック

(2) 経済法

講師	加藤 駿征
講義	<ul style="list-style-type: none"> ・経済法入門インプット講義 約10時間 ・経済法司法試験過去問講義 約20時間
教材	<ul style="list-style-type: none"> ・「条文から考える独占禁止法」第2版 ・「経済法 判例・審決百選」第2版 ・経済法司法試験過去問テキスト1冊
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・入門講義である経済法入門インプット講義→経済法司法試験過去問講義という流れで、経済法対策を完成させます。 ・経済法対策講座の詳細はこちらをクリック

6. 短答対策講義

(1) インプット講義 ・ ・ ・ 約40時間

講師	高野 泰衡
講義	基本7科目の短答知識について解説
教材	基礎・応用完成テキスト7冊
説明	基礎・応用完成テキストを使い、基礎インプットと総まくり講義で飛ばした短答固有の細かい部分を説明いたします。

(2) 短答過去問講義 ・ ・ ・ 約10時間

講師	加藤 喬
講義	基本7科目の短答過去問の解説

教材	短答過去問解説テキスト1冊
説明	私が、各科目10問前後で当該科目の「解法」と「勉強法」を習得する上で重要な問題を選別し、自ら作成したオリジナル解説テキストを使って、当該科目の「解答」とそれを踏まえた合理的な「勉強法」について説明いたします。

(3) 補足

- ・短答インプット講義→短答過去問講義という流れで講義を受講した後に、これまで勉強した知識と短答過去問講義で学んだ解法を総動員するつもりで、短答パーフェクトの問題を解きます。
- ・選択肢の正誤という表面的ことを丸暗記するのではなく、選択肢の正誤を導くために必要とされる法律知識と解法を身につけます。
- ・過去問集だけを回していると知識が断片的なものになってしまいがちである上、脳内の思考枠組みが短答に偏りすぎてしまう危険もあるので、適度に基礎・応用完成テキスト又は総まくり論証集を見返すのが望ましいです。
- ・短答パーフェクトの問題を全部やる必要はありません。私が正答率と出題範囲の重なり等を踏まえて短答パーフェクトの問題のうち繰り返すべき問題を2分の1前後に絞るので、2分の1に絞り込まれた問題を繰り返せば足ります。
- ・短答対策には、テキスト・六法の読み込み中心でやる方法と、過去問演習中心でやる方法とがあります。

8. 実務基礎科目対策講義

(1) インプット講義

講師	加藤 喬
講義	民事・刑事実務基礎科目のインプット講義
教材	実務基礎科目完成テキスト1冊
説明	<ul style="list-style-type: none"> ・実務基礎科目完成テキストには、民事・刑事実務基礎科目で必要とされる全知識が集約されています。 ➡要件事実論をはじめとする基本7科目の基礎・応用完成テキストにも掲載されている情報も実務基礎科目完成テキストに反映します。

(2) 予備試験過去問講義

講師	加藤 喬
講義	民事・刑事実務基礎科目の予備試験過去問の解説（サンプル、平成23年～令和4年）
教材	実務基礎科目の予備試験過去問テキスト2冊（民事1冊、刑事1冊）
説明	基本7科目の予備試験過去問と同様、民事・刑事実務基礎科目のインプット講義で学んだことを総動員するつもりで全問題について答案を書くのが望ましいです。